

物流情報システムのクラウド・サービスを手掛けるエクサス(神戸市中央区、鶴田純社長)は1日、海貨事業向け、NVOCC事業向けのサービスで船舶動静情報活用機能の試験運用を開始した。国内14港での船舶の入出港予定日時の変更と実績情報を、同社のクラウド・システムの利用者に無償で提供する。東洋信号通信社と共同で来年4月末まで実施し、その結果を踏まえて機能を確定。クラウド・システムの付加機能として販売を始める計画だ。

エクサスは船社・代理店、海貨事業者、NVOとそれぞれの業態に合わせてクラウド・サービスを提供している。このうち、海貨業務とNVO業務のサービスの利用者がシステムに登録しているS/I、I/I、B/Iなどで本船入港/出港前の処理中のものについて本船舶動静情報を提供する。

試験運用の対象港湾は5大港と清水、門司、博多、新潟、室蘭、苫小

本船舶動静情報の試験運用

エクサス 東洋信号通信社と共同で

牧、仙台、富山、四日市。東洋信号通信社から1日に2回、当面は朝夕方に送信される入出港情報を以前の情報と照らし合わせ、入出港予定日時の変更や抜港を検出。システム画面に表示する。同様に、入出港の確定(実績)も通知する。

これにより、利用者は業務に不可欠なスケジュール情報を自動的に得られるようになる。船社への問い合わせやウェブサイトの検索作業が不要になる上、B/Iの発行をはじめ作業手配を迅速化できる。荷主への情報提供によってサービスレベルを向上し、他社と差別化できるようになるのもポイント(鶴田社長)だ。

試験運用後に機能を検証し、情報提供の範囲や対象港湾、情報の送信頻度、利用料金などを決定。サービスとして本格化する。

利用者の要望に応じて、情報の活用方法も改めて検討する。例えば、入出港予定に変更があれば電子メールを送信するといったものを想定しているが、「データの加工の仕方、見せ方次第で、速報性が高く高精度の船舶動静情報には新たな活用の可

能性が生まれると鶴田社長は話す。

エクサスはクラウド・サービスによって利用者の事業拡大、業務の効率化を支援する取り組みを強化している。船舶動静情報活用機能はその一つ。また、最近では「業務知識共有プロジェクト」を立ち上げ、コンサルタントや同社のシステムの利用者を講師に招いて社内セミナーを開催している。特にNVOの実務や業務と情報システムとの関わりなどについて知識を深めてシステムの改良に生かし、利用者の業務フローの改善につなげていく考えだ。

先月には貿易・物流関連の人材派

貿易・物流関連の人材派遣を行うキャリアトラスト(神戸市中央区、窪田稔社長)は1日、ホームページ(<https://www.careertrust.co.jp>)をリニューアルした。利用者にとって見やすく、使いやすくするために、デザインと構成を一新した。

ホームページ刷新 キャリアトラスト

トップページには求人情報を「新着」「カテゴリー別」「Pick Up」といった形で配置。求人検索やエントリーシートの画面も工夫し、操作性を向上した。また、利用端末の画面サイズに応じた表示ができる「レスポンシブデザイン」を採用しており、パソコンに加えてスマートフォンやタブレットからも快適に閲覧できる。

遣を行うキャリアトラスト(神戸市中央区、窪田稔社長)と業務提携。互いのノウハウと営業ネットワークといった経営資源を融合し、港湾物流業界という共通の顧客基盤を生かして新たなビジネスの創出を目指す。まずは営業協力から始めるが、今後はシステムに精通する人材を育成し、エクサスのクラウド・サービスの導入に合わせて派遣するといった構想も具体化する方針。さらに、NVOのカウンター業務などを請け負うアウトソーシング・サービスも視野に両社で協力し、利用者の支援体制を拡充していく。